

## さぬき市住民インタビュー（要約）

香川社会教育推進コンソーシアム協議会

## さぬき市グループインタビュー

場所：さぬき市働く婦人の家



### 【行政サービスについて】

- ・
- ・ 国の財政も市も町も財政破綻をきたしている中で、行政と地域がそれぞれ役割分担を明確にして、地域住民が自主的にやらないと、町の形成が成り立っていかない。市は大きなインフラ関係、それ以外については地域でやっていくということで活動中。
- ・ 今は市とか県がやっている、河川のヘドロをすくったりするような仕事が、公共の工事でやると何百万もするものが、コミュニティでやると4分の1、5分の1の経費でできる。
- ・ 市がコミュニティ組織を作ったのだが、最近市と衝突することが増えた。一つの事業、環境事業に取り組んでも、コミュニティは勉強して、市の考えているもう一つ上のことを考えている。
- ・ 市役所で印鑑証明や住民票をもらいに行くが、土日やっていない。土曜日とか夜とか1時間2時間くらいでも、コンピューターのホストを落とすのを遅らせてもらって、高松に通勤している人でも取れるようにしてくれないだろうか。そういうことをしないと若

い者が帰ってこない。

- ・ 今年も水不足で、さぬき市は水が出たりするが、高松市は節水で市の人は何回か水道を締めに来ている。長尾に前山ダムがあるが、砂が入って水のとまりが良くないのかと思う。
- ・ 浄化槽とかで道路を掘っていて、その後の道路ががたがたというのが多いが、1つ1つきれいにしたらいいのではないか。
- ・ 市の広報誌について、書いている内容が難しい。行政の職員側は日常使う言葉で書いているので、難しいという意識はないかもしれない。住民側がどのようにすれば分かりやすくなるのか、教えてあげる必要があるかもしれない。
- ・ 今まで高いお金払ってやっていたのを、自分たちに任せてくれればコストダウンができて、これくらいのことではできるといふことと、こういうことをしていたらその分減税してもらおう等のインセンティブを考えてもらう。そういうふうになれば、さぬき市は財政厳しいが、いい形になるものもあるかも知れない

#### 【議員、職員給与について】

- ・ 議員さんは借金してる、借金してるというが、自治会の議員さんの給料はどうなんだ。日当制にするとか。
- ・ 行政から来る経費、税金、保険料、介護保険は値上がる一方。ということは市にたくさん借金があるということ。その割りに市の職員さんは給料カットというのではないし、特に議員さんなんか議員定数減の話も全くない。
- ・ 議員活動というのはよほど勉強して、特定の分野に精通していないと政策提言も出来ないし、提案された提言を論議して取捨選択するような判断も出来ないと思う。そういう環境の変化の中で、日当制にして最小限度の人員で本当に回るのかわからないが、議員が平素どういう活動をして、どういうものに貢献しているのかと言うことが、住民には実感できない。行政と同時に議会の役割も近代化したい。
- ・ 議員は住民が選んでいつのだから、住民もきちんと監視役をしないといけない。

#### 【インターネット環境について】

- ・ さぬき市〇〇ネットワーク運営審議員でさぬき市のケーブルテレビを民営化した。
- ・ さぬき市は香川県内でも一番遅れた状態にあると思われる。さぬき市はたぶん 2010 年度までには光ケーブルはこないと思われる。インターネットは現在 10MB サービスというのを始めているが、加入数が入っている方の 1 割、5000 人くらい。
- ・ 「ブロードバンド全国整備に関する支援制度」について、さぬき市は 45 億円の補助金をとっている。
- ・ インターネットについて、以前は通信会社の ADSL を使っていたが、多田さんのほうが 10MB のをやっていて安いということで使っている。非常に品質も安定してスピード

も速くて使い勝手がいい。通信会社の光ファイバーケーブルがくるのを待ってるが、さぬき市に工事しても全くもうけにならないと聞く。だからさぬき市はもっとお金を投資して、ブロードバンド環境を整備してもらいたい。

- 今は情報を得るのも、銀行の振込み、物を買うのもインターネットがほとんど。インターネットをもう少し市の行政の中で活かしてもらいたい。農協の注文でもインターネットでできればすぐだが、なかなか農協も動かない。そこに市が補助費用を出すとか、市から各自治会に毎月いろいろなものをたくさん送ってくるが、インターネット上で各人が見れば、印刷物が減り環境にもやさしくなる。
- 地デジの放送の中で自主放送ということで、3チャンネルでいろいろな情報を流しているが、これは今までアナログだけの放送だけだった。県内の他のケーブルテレビの自主放送番組に比べても一番遅れている、4月からデジタル化を始め、6月くらいからデータ放送という、地デジのテレビのDボタンというのを押せば、いろんな情報が文字ベースで見られるというのを始める。さぬき市広報と比べても、リアルタイムで内容を編成できる。
- さぬき市のケーブルテレビは安定しているというが、ADSLの方がまだまし。

#### 【情報格差について】

- 役所は情報を出しており、インターネットがあればいろんな情報をとれるが、市民はそれを読んでおらず土壇場になってあわてる。インターネットを使って、市民が情報収集しなければいけない
- インターネットは簡単とは言っても、なにがしかの操作の勉強はしないとイケない。年いった方や興味ない方は使っていない。市としてもパソコン教室をやっているが集まらない。無料で各地域の公民館とかを使って、一般社会人の方も夜間に来られるような企画をやっているが、だんだん人が集まりにくくなっている。年いった方で仕事もされてなくて暇な時間帯に見ていただいたら、募集等も相当数あるみたい。
- 情報関係が誰にでも簡単に見られるような方法をやろうかということで動いているが、それすら格差が出てくる。情報ボランティアという組織で、何か困ったことがあれば、きた時に教えられる範囲内であれば無料で、費用のかかるものは実費でやっている。
- 文字放送も有料で、情報を発信するにはお金がいる。だから発信できない。
- 箱物があって、情報があるということがまずアナログであって、そこへ行けば障害者の人も、一般の農業してる人も情報があるという場所が必要。今だと支所なのかさぬき市役所なのか全くわからなくて、公民館に行ってそこでパソコン教えてくれるという情報を得られた人もいれば、情報がつかめなくて未だにパソコン探してませんって言う人もいる。社協がいろんなところでサロンしており、出前講習会もしているので、それならお年の方でも触ってみようかという気持ちになると思う。
- インターネットしかならないのにパソコン買うのに10万ぐらいするとかというのがどうな

のか。企業なんかでお使いになった、もう今の時代には性能的に劣るものでも、インターネットするには問題ないようなものがあつたりする。それを無償かきれいな状態するのにかかる費用だけで、というような仕組みづくりがあると、もっと手軽にパソコンに触れられるかもしれない。

- ・自治会で毎月個別にチラシみたいなのを配っているが、結構量があるのでなんとかしてほしい。何とかするにはインターネット上で見るしかないなので、市の広報をインターネット上で見た場合は税金を免除するとかすれば見るようになるだろうし、勉強もしてみようかと言う気にもなる。

#### 【防災について】

- ・市役所のほうで無線のほうを億の金かけて整備したが、災害があつてから無線が届かないということで整備した。私たちのグループでは、アマチュア無線を使って中継局をあげて、さぬき市をカバーできるエリアを先に作っていた。行政無線は届かないが、アマチュア無線なら届くと見せた。行政は億の金かけて無線を整備したわけだが、あまり成果はなかったみたいだ。
- ・災害時 AED と応急手当の活動をやっている。来月 AED の講習会をするということで、AED のトレーナーを買うということで政策課にも補助金を出してもらっている。補助金も、なければならぬでそういう補助金の対象を作ってもらおうという形で動いている。こちらから提案していつ出るはず。
- ・自主防災の会長さんの住所を教えてもらった際、初めは個人情報で出せないといわれたが、最終的に名簿上で住所を出してもらった。理由さえあれば名簿で出してもらえる。業務課のほうも、講習会をやると言えば名簿を出してもらえる。一回前例ができると、次回からすぐに出してもらえるとと思っている。次回からどんどんと名簿提供をしていただきたい。

#### 【コミュニティの運営について】

- ・当初は市、地元社協からの助成金で運営していたが、活動を展開していくうちに資金がショートしてきたので、地域の中の企業に賛助会員（スポンサー）になってもらう。現在は市と社協の資金で 6 割、4 割は民間資本で運営しているが、毎年市から 5% ずつカットされている
- ・今までの連合自治会とかボランティア協議会だけではなく、もう少し突っ込んだ組織作りと活動のあり方というのを煮詰めていく必要があるのではないかと。
- ・小学校がなくなった後、その施設をどういうふうに関地の運営に使っていくのか。それが地域のセンターになって、住民が活発にいろいろな日常に密着した生活プログラムを実行する場所に活用できる体制になるのかが問題。
- ・自治会館の建て替えをしないといけない時期がきているが、災害があつた場合にみんな

- が避難でき、何日か過ごせるような体制ができないか練っている。お金の問題もある。
- 自治会で集まるのは年に1回だけ。全く情報がこない。回覧板が回ってくるだけ。内容もたいしたことない。頻りに集まるのが嫌な人もいる中で、いかにして人を集めるか。コミュニティを大きくしていても、出てくる数は減ってくる。
  - 町の真ん中で6回くらい集まる。必ず会場に集まるのではなく、大掃除の会合の冒頭に自治会が連絡事項の時間をとる、終わったあとに話をする。何かをする時にはみんなで食べる場を作る。川西地区では土器川いも炊き大会をやっているが、今は1000人超えるようになった。費用は企業に出してもらって、料金はタダみたいになっている。「そうわ会」では、回っていったら最低金一封5000円で、一晩に20件くらいいく。そのお金で打ち上げをしたり、旅行にいったりする。地域の老人会を月1回、だいたい300円くらいの会費でやっている。野菜とかを持ち寄ってみんなで作ると、そのプロセスが楽しい、それで元気がでる。
  - 各地域でいろいろな負担金があり、大体一定額という形で運営していると思うが、川西地区では市と県に話をつけてそれを切った。町は町で課題があるとしたら、一律で払うのは必要ないのではないかと。それをやめて「街づくり基金」といって、我々の地域で好きなように使うというふうに変えた。
  - ボランティアでやる作業に要する時間があるところを超えると、働いている人なんかは難しい。タダで働かすと言うのは難しいので、少しはバイト料のようなものを用意しないとイケないのかなと思う。

#### 【民生委員の活動について】

- 民生委員として一人暮らしの方の支援をしているが、どこまで踏み込んだらいいか悩む。あんまり踏み込んでも嫌われる可能性もある。障害者の方も行きたいが、家族の人もおられるのにどうかなということも考え、それとなく見守るような感じになっている。する仕事も多いが、勤めながらやっているので出来ないこともある。
- 情報格差について、民生委員がつなぎ役として情報を伝えることはできないのか。
- 災害の時に行政から調査は依頼されるわ、住民側からもいろいろあって、お弁当まで配らなければいけなかったりする。民生委員で倒れた方も高松でも何人もいる。日常的にも民生委員さんの仕事は増えているので、それを支援する体制を地域で作っていく必要があるのではないか。
- 自治会としては福祉委員、老人会と連携してやる。一人暮らしの方を災害の時に、民生委員が全部面倒みるのは無理。一人暮らしの方や障害者の方の情報を民生委員のほうが持っていないと、いざと言う時に対応ができない。県で出している福祉サポートとの連携は全然ない。民生委員、福祉委員、サポーター、老人会とたくさんあるが、それをまとめる人が誰もいない。

### 【社会福祉協議会について】

- ・ 災害時の福祉のコーディネート役は、社会福祉協議会のはず。香川県の場合は、コーディネーターを中で育てる方向に意識改革していくのが難しい。
- ・ 地域包括支援センターも実際は事務に追われていて、本来はコーディネーター役として機能しないといけないところだが、実質は職員も少なく機能してない。
- ・ これほど高齢化社会になってきた時に、市役所とか行政サービスの一つのユニットの役割と社協の役割が、どういうふうに分離されて、何が意図されてあの組織が分かれているのか。あれはもろに行政サービスが提供すべきだと思うものも違う組織だったりする。サービスのインフラの整備を大至急しないと、住民サービスのあるべき方向についていない。
- ・ 社協がやっていることでも、地域のコミュニティがやったほうがいいものもある。もう一回再構成をしておすと言うのが必要だと思う。
- ・ これだけ行政の負担が大きくなってくると、小さな町単位では福祉なんかもできない。当然の成り行きで大きな行政と言うのに変わって行く、それはそれで正しいことだと思う。一方で生活実感として、困っていることがおきた時に縁遠い存在になってしまっている。それを解消するには、自治会のような地域に密着している、地域そのものが第一線で何かやったほうが、ローコストで、タイムリーで早くできる。

### 【障害者支援】

- ・ さぬき市での視覚障害者対象のサークルは県東部で初めて。さぬき市において、視覚障害者にむけての政策というのは皆無で、障害福祉課も対象にする団体ができても、誰が来るのがわからない状態。身体障害者手帳の登録はあるが、個人情報の問題で情報が得られず、いろいろなものやサービスが届けられない。民生委員と連帯できたらスムーズにいくような気がする。
- ・ さぬき市全体に対して PR する場がない。ケーブルネットワークに放送してもらったこともあるが、そういうところともっと連携がとれたらいいと思う。
- ・ さぬき市の広報が視覚障害者向けにまかれておらず、音声で聴くことができなかった。高松市はできる。それで、去年の春市役所に交渉して音声化できた。そういう市役所との連帯とか、市の障害者に対する意識を高める場があったらいいと思う。
- ・ 情報が全くない。担当者に聞いても、むしろ知っていたら教えてほしいと。障害児も点在しているので、どこに誰がいるかも分からない状態で、誰に聞いたらいいのかわから探していかなければいけない。NPO 法人とかを作りたいとは思っているが、架け橋というか、誰に聞けばいいのかも分からない。
- ・ 子供たちのもっている障害はさまざまで、そのお母さんは、例えば 80 歳の方もいるし、生まれたばかりの子供のお母さんもいて、非常に幅が広い。そうなる color 色んなニーズがあり、同じ障害といっても、知的障害のお母さんと身体障害のお母さんでは全く正反対

の意見があって、うまく分かってもらうのが難しいこともある。

- ・ 高松市や三豊市の中には、グループホームとかケアホームとかたくさん施設があるが、さぬき市はそれがまったくない。高次脳機能障害とかいって障害者がものすごく増えていて、学校も満杯で教室も足りない状況。障害児が学校を卒業しても、作業所に就職したりということがあがるが、作業所は出て行く人がいないので満杯の状態。子供たちが卒業していく場がないので、何か考えてもらいたい。空き家とか、廃校になった小学校の跡地とか、何か公共施設を利用して作業所的なものが展開できるのであれば、親たちは協力していくと思う。
- ・ 県とつながっている人はそこから情報を得ているが、全く家から出ない人は存在すらわからない。障害者間のコミュニティがない、点在してる。

#### 【農業について】

- ・ 集落は休耕のところがいくらもあり、そうすると山手は猪がくるので獣が入ってくるのを防ぐ必要もあるし、環境的にも良くない。
- ・ 農業をやっているお年寄りができなくなると、その明るく日くらいから世話をする人がおらず田んぼが手つかずになる。そんな状態の家庭も多い。
- ・ 農業で飯を食っているところは少ない。年金を多少持ち出して農業をやっている。しかし農業で環境を美化し、災害の時には用水路の清掃も含め、みんなで協力してやる必要がある。農業で生活するのは二の次で、メインは年金と給料。労力は無償提供に近い形で出している。今若い 40 代 50 代の人が退職して、後継者として引き継いでやってくれる。農家でない人をどうやって勧誘をするか、そういう人がきて引き継いでくれるのか悩んでいる。
- ・ 多少国から助成金はあるが、それでは生活できない
- ・ JA と行政の支援の枠外で作る人は、減反なしで 8000 円で米を売っている。減反をしないと過剰米になって米が安くなるから減反しろと言っているのに、他所では 100% 作ってる。農業政策で不安定で地域では悩んでいる。
- ・ 2 年前に集落の農道工事を法人化して今 7 名で運営している。かかった費用、機械代や油などがペイすればいい、労務費は持ち出し。さぬき市は他に例がないほど、法人が 10 組合できている。それは県の指導、JA の協力もあってできたが、あんまり恩恵的なものはない。土地を集約するのに苦労している。高齢化が進んで後継者がいない、ゆくゆく誰が管理していくのが不安。
- ・ 農業で生計を立てるためにはハウスをすること。市としてさぬき市は何を特産にするかというが、JA も含めてイメージがまずない。大内町ではパセリといったように、町の特徴は何かというのが見えない。それをするには投資はいるが、投資するには後継者がいるのが前提なので難しい。
- ・ 今経産相なんかで、農商工連携とあって、今まで農家は作って売るといっているので終わって



いたのを、売れる商品を作ろうということで、予算やアドバイザーをつけたり低利融資をしたりということで推奨している。

- ・ 農商工連携は人口がたくさんいるところでしか成り立たない。さぬき市で生産から加工、販売までやっても人口が少なく人が来ない。では他所からどうやって呼んでくるかと言うことだが、みろくに即売するところがあり、一時は高松からたくさん来ていたが、だんだん安かろう、悪かろうになってお客さんが離れていった。販売所を作るなら、農家と業者が、あなたは何かを作ってください、という話をしなければならない。何を出してもいいというのではいけない。責任者が選別していかないといかけない。
- ・ 農地法の改革で株式会社が土地を持てるようになったが、株式会社は自分の利益を最優先にするから、うまくいかなかったら撤退した後どうなるんだという問題は残る。地域の人が株式会社を作ってやるっていうのは、あるのかもしれない。

#### 【少子化問題】

- ・ 子供が町の中心にある小学校に 6 学年全部で 68 名しかいない。従って大山市長の方針に基づき、統廃合の第一の対象になる。私たちの地域の小学生は現在約 16 人。別の地域にある小学校と統合した新しい小学校を、離れた場所にある現在の中学校の敷地内に作るとすると、地域の中にある小学校がなくなり、まず地域の元気がなくなる。
- ・ 自治会の神社の木の枝が伸びているので切ろうということになったが、年寄りばかりでできない状況。若い人が来ない。
- ・ 子供がいても就職だと称して県外に出て行く。そうするとせっかく資本投資して大きくした人間がよその街に行って、地元は寂れる一方。
- ・ 地元の自治会で、秋祭りの獅子舞とかの手で行っているが、今の時期は人がいない。一番若いのが私で、あとは 45 歳から上の人ばかり。動けるのは 45 歳代の人が中心。獅子舞には子供が 2 人いるが、その子供も 2 人は用意できない。時によっては、よその町から、市外から呼んできたりという状況で、続けられるか苦しい。
- ・ 以前は親と一緒に住んでいると言うのが多かったと思うが、最近は自分の家を持つようとしている人が多い。しかし、その人が地元の自治会で家を持つとしたら土地がない。売っていない、探してもなかったからよそへ行って、また人が減っていくという状況。空いているところを交渉しても売ってくれない。
- ・ 働く場所、会社がない。農業では飯が食えない。
- ・ 娘が最近牟礼に家を建てた。なんで牟礼を選んだのと聞いたら、土地が安いとのこと。それでその一角には次々に若い人が家を建てている。

#### 【子どもを取り巻く環境】

- ・ 公園がない。子供が遊ぶ場所がない。公園を作るとしても、安全性とか誘拐とかいう、

心配事に対する措置は別途やらなければならない。

- 地域の遊び場で鉄棒とかブランコとかあったが、それで怪我したら市は全部撤去した。自治会で責任を持つなら置いておくが、点検なんかを自治会がするのでないのなら撤去する。行政としては保障はできないということで、全部撤去された。全部地域へ押し付けてくる。
- 地域の中に小学校には 68 人しかいないので、運動会が成立しない。そこで地域全員の町民運動会として実施した。プログラムの中に子供だけで運営するものと、地域が加わって運営するものと 2 種類ある。結果として、昔あった町民運動会と同じ現象が起きて非常に楽しかった。
- 子供をつれて遊びに行く場所がない。みろく自然公園も行きつくして、インパルながおのプールも飽きてきた。
- 昔の子供は自分で工夫して家の周辺で遊んでいたが、最近は車で連れて行って遊ばせる。自分で道具を作って遊ぶことをしないから、鉛筆削るのにも難儀する。それは将来的には非常に困るだろうなど。ナイフの削り方を教えてくれるようなところが、みろく自然公園のなかにあるとか、そういうちょっとした工夫があればいいかなと思う。

#### 【買い物する環境について】

- 大型店舗ができれば、周囲に家が建つのではと思うが、三豊にゆめタウンができたが、人來なくてがらがらだからそれだけでは駄目。
- 大型店舗ができると、地元の企業がすたれる。それがいいのか悪いのかも考えないといけない。
- 若い人たちは近くに大型店舗があるということが、生活しやすい環境の要因の一つではあると思う。若い人は車でいけるからスーパーのような大型店がいい。
- 郊外に大型店ができて、旧市内は不便。常盤街はもうぼろぼろ。
- 年寄りには近くに昔からあったような、歩いていけるようなお店がいる。ちょっとだったら電話したら持ってきてくれるような。そういうところがないと、年を取って車に乗らなくなったらどこに住もうかということになる。
- フジグラン丸亀ができたが、奥さんに先立たれた方などは、一日歩いて、食事はできるし、本は読めるし、冷暖房がきいているしということできている。フジグランは配達もやることを考えた。そのように地域と一体で守ってやらなければいけないというのがあって、地域で教えてやっている。
- フジグランは買い物スペースの幅が広いので、車椅子とかベビーカーなんかでも動きやすい。

## さぬき市婦人団体連絡協議会インタビュー

場所：椿の庄さんがわ

参加者：11人



### 【さぬき市の婦人会の活動状況】

- ・ 津田町と大川町は旧町に一つしか婦人会がない。他は小学校区単位。（旧町時代の状態を継続）多和は休会中。
- ・ 津田は以前は校区ごとに3団体の婦人会があった。昭和31年に合併して、33年に婦人会は合併した。
- ・ ・旧校区にまだこだわって活動をしているところは、旧町に分かれてしてくれと市のほうから指導を受けた。しかし現状を維持させてほしい。

### 【地域の活動拠点】

- ・ 鴨庄地区：もともと公民館はなかったが、「さぬき市生涯学習館」、社会福祉協議会の「鴨庄ふれあいプラザ」という建物のできたので、それらがあって重宝している。「さぬき市生涯学習館」は有料化された。「鴨庄ふれあいプラザ」は無料で、用務員さんは支会で雇っている。

公民館は分館になって館長はいなくなった。ふれあいプラザはさぬき市の支所として一つの機関がある。その支所の職員も来年から廃止。支所がなくなると、志度でも津田でも、どこへ行くにも峠を越えていけないといけない。

以前は「勤労青少年ホール」の体育館を使っていたが、雨漏りがして建替える予算はないということで、中央小学校の体育館を使っている。使っている人は電気代を集金して運営。

農業婦人部は支所で役員会している。漁業婦人部は漁村センターでしている。大きな埋立地が出来た時には企業の研修センターが建った。企業も潰れたりして、それを地元の自治会に下ろすというが、自治会は運営できないからいらぬという。青少年旅行村もそうだったが、運営できないから水道等ははずした。

- ・ 造田地区：現在は昔からの地域の造田公民館があり、職員が 1 人配属されているが、小学校の統合編成により数年後には校区になる。その職員と建物が、今年、来年には議会で廃止の危機にある。地域の者は長尾公民館に行くには距離もあるし、地域の者だけのコミュニケーションはすごく大事なので、造田の昔からの建物と職員を置いてほしいという願望がある。婦人会も事務局が会長宅で、書類も山のようにになっている。造田の場合は幸いにも、書類なんか公民館に置いているが、廃止されたら困る。部屋の使用は有料。
- ・ 神前地区：勤労者体育館の 2 階の畳の部屋を使っている。どこかが壊れたとして、公民館がシルバーを雇ってくれるのか、自分たちでボランティアでやるのか、そこら辺から考える。来年から自分たちでお金を集めて維持費を出さないといけない。婦人会の中にいろいろなクラブがあるが、婦人会にはお金がないので、そこにお金はあげられない。そうなるクラブをやめようかとなる。ただでさえ婦人会から人が離れていくのに、そのクラブまでなくなりそうな状況で。横の小学校にふれあいプラザがあってもお金は要りませんが、いろいろあって体育館の方が気兼ねなくできる。
- ・ 志度地区：「働く婦人の家」を使用。出来た時は婦人会オンリーということで、自由に婦人会に開放して、何でも置けたが、南公民館が廃止になったので、全部が婦人の家に寄ってしまった。そうすると、役員会を決まった日にしていたのができなくなる、いちいち交渉するという感じで。お金は要りませんが、冷蔵庫も終わったらすぐに持って帰ってください、押入れもちょっといっぱいになると整理してくださいと連絡がくる。志度は民謡やなんかは、自治会の会堂みたいなところでやっているのにお金は要らない。
- ・ 大川地区：富田小学校と松尾小学校が一つになって大川になっている。公民館はあるが、

いろいろなところが壊れてきたり、先日もガス漏れがあったが、なかなかおしてもらえない。蛍光灯も切れていてもなかなか換えてくれなかったり、何度も言ってやっと換えてくれるような状況。公民館には公民館長ともう一人職員さんがいる。

婦人会の役員会も公民館を使っているが、来年度からは時間に対してお金が要るようになってくる。月に1回を二月に1回にしないといけないかなとか、そういうこと言っています。先日も文化祭があったが、公民館を中心にして人が集まって楽しいことをやるということで、おはぎやおもちで利益を得ようとする場合には公民館にお金を払わないといけない。今までだったらコピーも婦人会で紙を買っておけばよかったが、今は何枚まではいくらという感じ。公民館から離れていくような感じになっている。

- ・長尾地区：長尾公民館は昭和51年に、「農業者トレーニングセンター」という名前の下に建った。建った時に、婦人会と「農業者後継者クラブ」と交通安全協会の3つの事務局を置いた。農業者後継者クラブは消滅して、相談室という名前に替えて使っている。交通安全の事務局はライオンズクラブの事務局に変更して使用。婦人会はずっと継続。事務局の部屋は小さいですから、役員会の時なんかには研修室を使ったりしている。館長が今は臨時職員になっている。昭和地区には昭和分館もあり、そこにも管理人がいる。コピーにはお金が要りますが、それは当たり前のこと。長尾町の時代から、調理室なんかの細々とした備品は、婦人会で買って置いてきた。使用料は出していない。
- ・石田地区：「農村環境改善センター」が建ったときから事務所を一部屋もらっている。公民館に館長と事務員、学校支援センターの担当者が一人いる。今後、文化活動するのに経費をとられるということだが、山間地域で会員が減っていて、それならを借りようとか、やめようかという話になる。文化活動が低調になると、町の活性化ができないと思う。
- ・前山地区：出来た時には「前山研修センター」という名前だった。使用料がいるようになれば、クラブの活動は他でやって、食事を食べて帰った方がいいということになる。分館は畳の部屋なので、机が欲しいということで、婦人会といきいきネットで中古の机を買った。椅子はないから選挙管理事務所のを借りて、それも足りない。
- ・津田地区：北山小学校がなくなり、津田公民館北山分館として管理人を一人置いてもらっている。来年3月に鶴羽小学校が統廃合になって小学校は津田に行く。鶴羽小学校で地域の運動会をやっていたが、子どもがいなくなったら出来なくなる。今後鶴羽小学校がどのように使われるのかが大きな課題。  
津田にも働く婦人の家があるが、10年前にそこに事務所として専有させてくれませんかといったら、スポーツ少年団の道具が入っていて出来なかった。

婦人会というのはボランティア団体なのに、趣味の会に重きを置いている人がいる。ご近所で集まって趣味の会をするのだったら自治会館を借りればいい。なぜ公民館なのかという問題があがったが、合併と同時に消えた。公民館というものは何なのかということが疑問。趣味の会と一緒にされては困る。

- ・小田地区：拠点は「ふれあいプラザ」。会員が116名。自治会である程度の負担はしているだろうが、一切請求されたことはない。年間800万円の経費がかかるから支所をやめるという話があるが、800万円の人件費を出すために、我々ボランティア団体が不自由するのでは話にならない。地域のことを思うのであれば、せっかく作ったものを潰すというのは、また立ち上げるのは大変ですから、現状維持でお願いしたい。漁村センターというのはいり、そこも漁業組合関係で補助金が下りている。使用申請は出すが、使用料は払ったことはない。来年からはどうなるのかわからないが、ボランティアとして使うのであれば免除して、趣味とかで使うのであれば使用料を払うべき。
- ・公民館として作られているところの方が、今となっては使いづらくなっていて、別の目的でできて流用されている方が融通がきく。
- ・老人会の拠点は社会福祉協議会にあたりする。自治会はない。
- ・「椿の庄さんがわ」は「老人会生きがい発見促進施設」といって厚労省関係の施設。運動をして建ててもらった。最近になって、予算の関係で一般の人、子ども会、婦人会には使わせませんということになった。

#### 【他団体との連携】

- ・鴨庄地区：婦人会だけでは活動できないということが多くあるので、自治会、老人会、子ども会、PTA、民生委員が入ったりして、いろいろなものが集まっての活動はしている。この行事は子ども会中心に、手伝うのはいきいきネット、自治会。お祭りから始まって、敬老の集いも婦人会が主立ってするけども、バックにいきいきネットがあるから、予算的に助けてくれる。
- ・長尾地区：自治会、婦人会、いきいきネット合同でやっている。市の補助金といきいきネットの予算、自治会からの予算で運営。コミュニティに近い状態の活動にはなっている。

#### 【活動費用】

- ・「いきいきネット」（社会福祉協議会）の予算  
鴨庄他は予算が出ている。

津田・大川・志度は予算は出ていない。「いきいきネット」単独で使われている。  
→地域ごとに予算の分配の仕方が違う。

- ・ 婦人会の中のクラブ

会場費が必要になると、現状でも会員が減って、講師のお礼等が大変なので、クラブの維持を考えてしまう。

## 寒川公民館運営協力委員会グループインタビュー

場 所：さぬき市寒川公民館 第三会議室



Q:まず、団体名とお名前、現在の活動の課題、問題などについて伺いたい。

支所：今年度より業務縮小となった。昨年度までは、職員が地元と協力してやっていたが、現在は支所長兼務の状態。地域活動の援助が難しくなった。

文化協会：地域の文化・芸術活動は、旧町時代は、教育委員会が力を入れて職員が施設管理などもやってくれていた。新市になって、行政が手を放し、自前で管理をということになった。市教委は、市全体のことをやるので、地区の行事は、自分たちで行うよりない。

（組織においては）構成員の高齢化が進み、若い人への継承が課題となっている。これは、団体内の努力だけでは無理。行政の援助がないとやれないのが現状だが、それも望めない。

文化・芸術活動は、自治体の責任。文化芸術振興条例も作ったが、主管課も、教育委員会から政策課に移って、イベントが中心になった。そんなことより、地域の文化・歴史活動を重視すべき。

体育協会：後継者の育成、中心となる人材の育成が課題。スポーツは、若い人が集まりやすいが、中心となる人材の育成は困難で、活動そのものもバラついている。行政には、そうした人材を育てる方にもっと力を注いで欲しい。そうしたこと（人材育成）を考えると、補助金の年限を一定期間としていることにも無理がある。



中学校：少子化で、地域の人間関係が固定化している。少子化対策で、子どもの人口増加策を行うことは急務。

保育所（児童館）：学校支援ボランティアの事業で、幼稚園・保育所・地域の協力体制がとてうまくいっている。この事業が長く続いて欲しい。

幼稚園：幼・保一元化などの取組について、母親が就業していることが多いため、預かり保育（18:00 まで）が増えている。親子のコミュニケーションが不足していることが気になる。子どもたちに自尊感情が育っていない。家庭内での関係性が希薄なので、それを、地域での関係性の濃密な部分で大人や高齢者とのふれあいを持ちながら育てようとしている。

Q:子どもたちだけでなく、大学で教えていても、自尊感情の希薄さを感じる。地域の歴史や文化に触れ、地元の高齢者などと日常的に触れ合う場づくりは、ふるさとへの愛着を深め、生まれ育った地域と自分自身への誇りを生む。そうした意味でも、この地区で、団体間の連携はうまくいっているということだろうか。

学校支援ボランティア・コーディネーター：公民館拠点での事業で、地域の連携、協力が密にできてきている。住民の間に、学校等への支援の輪が形作られてきている。支援期間終了後も、継続して欲しい。

Q：継続のためには、リーダーの必要性という話もあったが、コーディネーターの育成も重要と思える。そうしたことも行っているか。

そうしたことも必要と考える。今後の課題となると思う。

文化財保護協会：年々、予算が削減され、活動は厳しい状況にある。一方、市になって会員が増加した。地域の文化・歴史・学芸の保護は、意識と知識を受け継ぎ、継承していくことがなければできない。旧町時代、大人を対象にした、ふるさと歴史探訪、子どもを対象としたふるさと歴史教室を、町教委の支援で行っていたが、新市になってできなくなったので、新しくふたつを合体した形で「ふるさと歴史学習」を始めた。旧町の中だけでなく、支部間交流も2年前から始めている。

神前婦人会：婦人会同士の交流事業、文化財協会との連携を行っている。今後は、他団体との連携、ネットワークをいかにつくるかが重要ではないかと思う。

組織そのものの課題は、高齢化と会員の減少。そうした現状の中で、他からの動員要請に応え辛くなっている。今は、会員の責任感、義務感で引き受けている部分もあるが、疲れてきている。現場での活動は、遣り甲斐もあるし、帰りには笑顔で戻ることによって救われているが、限界もある。

石田婦人会：婦人会の活動は、とにかく幅広く、広く、浅くという感じ。他団体や行政からの要請は、頼られているのか、会員が多いからなのかかわからないが、依頼は多方面からあって、高齢化が深刻になっている現在、若い人をどう取り込むかが課題。

Q：そもそも婦人会とはなにかということに立ち返る必要があるという話が、以前、婦人会での話の中であったが、そうした課題もあるということか。

そうだと思う。

Q：最後に、丁度、社会福祉協議会の番になった。いま、婦人会にボランティア活動に関する動員が集中している、応えきれないという話があがった。ここだけではないと思うが、どこでも、ボランティアが必要ということになると、婦人会、老人クラブということになりがち。しかし、本来、こうしたボランティアの創出、育成、コーディネートは、社会福祉協議会の役割。そうした意味で、社会福祉協議会の役割は重要と思われるがどうか。

社会福祉協議会：地域で楽しく過ごすための支援活動を行っている。

職員は2名。福祉委員制度を導入し、自治会組織を中心に、緊急時の対応、日常的なおつき合いの深化を図っている。福祉委員の地域の中での役割機能の安定と明確化を図ることが課題だが、自治会長の任期は1年か長くて2年というのが問題。

Q：学校支援ボランティアとの関係についてはどうか。

地域ごとに独自の活動をしているので、今後それをどうしていくかは課題。

Q：寒川モデルの普及と社会福祉協議会の事業との関係はどうか。

私立幼稚園については、社会福祉協議会がボランティア派遣を行っている。

Q：寒川での取り組みは、みなさんの話を伺っていると、団体間の連携についてもとてもうまくいっているように思える。しかし、この事業を継続していこうと考えると、

地域住民からすれば、必要な活動は、生活ニーズの中で、文化芸術、福祉、教育、体力増進など幅広いニーズが相互に関連しあっているのに、行政の各々の団体への活動支援のあり方は、縦割りだということ。予算配分についても、特に合併してから、地域のニーズに合った形で使える枠組みになっていない中、各々の予算が減少していることが、活動や支援体制を難しくしていることもあるように思える。

さぬき市は、合併して、コミュニティ協議会とか自治区とかを作らなかったのが、地域住民組織とテーマ別の団体がバラバラに活動しているままだが、大阪の池田市などは、地域住民組織が、地域で議論して、地域が必要な予算をまとめて市に要求するしくみもできている。

さらに、公民館は、そもそも、貸し館や講座をやる場所ということではなく、その町に住む住民が、地域の課題を持ち寄ってそれをどうするかを議論し、それに必要な活動を行い、行政への地域からの提言も上げるという場であるべきだと、公民館の提唱者の寺中作雄は言っている。

そして、社会福祉協議会も、これまでのような社会福祉活動支援だけでなく、その存続をかけて、さきほども言ったとおり、地域の市民活動全般の創出、支援、コーディネートを行うという方向でいこうという動きがある。県内でも、琴平社会福祉協議会の越智さんは、コミュニティ・ソーシャルワークを社協でやるべきだということで孤軍奮闘している。

そこで、最後に館長さんに、私見で結構なので、公民館の地域での役割や機能ということで、このあたりについて伺いたい。

公民館：公民館の館長を引き受けて、いったい何からどうやればいいのかと悩んだ。そうしたところに、平成16年の台風で、水害の被害で、2名が死亡するということがあった。そのとき、さぬき市から支援ボランティアの募集があったが、寒川町からは、5名しか応募がなかった。公民館は貸し館だけでいいのかと考えた。そうした問題意識から、ボランティア養成講座をはじめた。

公民館と社会福祉協議会が、ひとつになって、ここで活動支援ができる方法がないかと考える。そうすれば、職員も増えるし、予算も限られた予算で、活動支援もできるようになる。

体育協会：地域に、個人主義が拡大している。自治会をまとめていくのは困難。

文化芸術協会：古くなった家は崩れる、農地は、耕作放置が増える。自治会は崩壊するという状況の中、白紙から作り上げるならできることもあるかもしれないが、今は難しい。

## 母子愛育会インタビュー

場所：長尾支所

参加者：6人



### 【活動内容】

- ・ 志度：クリスマス会なんかの親子で触れ合う会、お母さん対象の料理教室、フラワーアレンジメントなど。未就園児対象の「きららサークル」を毎週月曜日 10 時から、社協と一緒にやっている。  
「きららサークル」は愛育会の役員さんがやっている。他は幼稚園のお母さん同士では、バレーをしたりとかがあるみたい。未就園児では保育所とかのサークルは開かれているのでそれとか。あと支援センターの「あいあい」、きららサークル、それから生涯学習館で未就園児対象の体操教室を毎週水曜日に行っている。きららサークルは 10 組から 20 組の間くらいがくる。入っているのは 50 組くらいいるので、何かの行事の時はそれより多くなる。参加しているのは、志度全体のほんの僅かだと思う。
- ・ 津田：クリスマス会、料理教室、手芸サークルなどお母さんが活動したいものを、子どもが小さい人は一緒に連れてきて、土日にクリスマス会などの行事を年に数回している。あと社協との絡みで「子育てサロン」をしている。全部未就園児対象。別団体で「母親クラブ」というのがあって、会員はほとんど愛育会と一緒にですが、自分たちのやりたい

ことをみんなで決めてやっている。

- ・長尾：クリスマス会と、手芸など。あとは未就園児の子どもさんとお母さんの「なかよしクラブ」、これはお母さんたちが自分で運営していくようなもので、集まってお茶飲んだり話したり。地域の支援センターにみんなで行くこともあるようだ。
- ・大川地区：「子育てサロン」で毎週火曜日に「おひさま広場」というのをしている。愛育会としてはウエルカムパーティ、バーベキュー、クリスマス会などをしている。会員は200か250世帯くらい。2月くらいに料理教室を、親子でやったりお母さん対象でやったり、講演会とかフラワーアレンジメントとか、お母さん方の希望を取り入れて、勉強しつつやっている。
- ・さぬき市全体の活動：役員会をだいたい月1回、情報交換をしたり、市の活動を決めたりしている。毎年6月、7月くらいに、「愛育祭り」をしており、ここ最近は劇団さんと呼んだり、今年はフリーマーケットをした。

#### 【遊び場】

- ・公園がない。公園にみんなで集まって遊びたい。いろんなところに自然があるから、いろんなところにバラバラに行く。そしたらそこで子どもたちも遊べて、お母さんたちとも会話ができる。そういう公園がないから、皆個別にはいろんなところへ行くけど、誰もいないからもう帰ろうかとなる。
- ・子どもが幼稚園、小学校になったら、子どもが友達と約束して、じゃあお母さんも一緒に行こうかとなるけど、それ以前の未就園児となると…。そういう集まれるところがあったら、誰かいて話ができるというところがあればいいのだが。自然むき出しのままではちょっと怖い。
- ・遊具のある遊び場があったが、古くなって一時期事故が多発したときに、遊具を取り外してそれっきり。新しく取り付けて、きれいにしてくれればいいのに。
- ・遊ぶところはどんどんなくなっている。頑張っってこういう場に出ないと、友達は絶対にできない。家にただいたのでは駄目。近くの公園に行っても誰かいて、ということはない。小さいお子さんがいても、仕事に行かれてるお母さんも多いので、家にいても家の周りであまり子どもの声がしない。みんな保育所に預けられていたりする。
- ・わははネットは、子どもの小さい時は登録してましたけど、情報は高松のものばかりで、駐車場代を払って参加しないといけない。小さい時はそれでも友達を作りたいからと思って、何回か参加したことはあるが。子どもが幼稚園、小学校となると必要もなくなってくる。
- ・公園は、オレンジタウンとかニュータウンとかグリーンタウンとかいう住宅街にはある。県住宅にも。そういうところに住んでいる人は行くが、他のところに住んでいる人は絶対に車で行かないといけない。住宅街でとめるところはないから、ちょっと遊んで帰る

ようになる。ベビーカーを押していける距離で公園が欲しい。駅近くとか。

- ちょっと前の事故でブランコがなくなって、今度は松が折れて知恵の輪みたいな遊具の一本が折れた。それがなくなったら、もう遊ぶものがない。滑り台はローラーだが、砂がつまってしまって滑らない。階段もものすごく急で、2段階あって2段階目は真上に上がる感じで、小さい子はとてもじゃないけど上がれない。
- 5町だったときに、それぞれの町でそれぞれ発展してきて、町の真ん中でそれぞれ建物を作っているから、町が合体したら、ドーナツ型で真ん中は空間になる。では皆で集まって何かやろうといったら、津田に集まるとしたら長尾の人は負担だし、他でやるとしても、その地域以外の人は負担だし。

#### 【取り巻く環境】

- 出身は大川ですけど、どこに家をするかというので長尾を選んだ。あまり都会に出て行く気はなくて、田舎の方がよくて、長尾だったら大川の主人の実家にも近いし、道ができてきたので高松にも時間がかからないし、手頃なところがあったので。近いところを選んだので、その点は安心。
- 山手3町の場合は、保育所ができた当初、おうちで仕事してるから保育所に預ける必要がなかったらしい。なので、2歳になったらとにかく保育所に預けてくれということになって、4歳になったら幼稚園へという流れができています。今はお仕事しないと保育所に入れられないので、1歳か2歳になったら、おじいちゃん、おばあちゃんは、保育所に預けるだろうという頭でいる。私は私立の幼稚園に3年行かせたが、それだけで変人扱い。そういう流れがあって保育所に預けてしまうから、家で見たいと思っても周りに遊んでくれる子どもがいないから、結局は仕事に行って保育所に預けるということになってしまう。これが大川、寒川のジレンマ。長尾は私立の幼稚園があって、また違う。
- 私の子どもは5年生ですが、私の子どもの時くらいまでは、仕事をしなくても多めに見て保育所に入れてくれてたけど、今は厳しくなっているので、3ヶ月以内に仕事を探さないと出されてしまうので、必死になって仕事を探しているお母さんもいる。志度はその点、マック行ったりとか、うまいこと見つけてきている。寒川だったら幼保一貫になっているから、また違う。

#### 【情報の伝達】

- サークルなんかは個々にそれぞれが頑張ってるのはいるが、情報を得ないとこられないし、自分から来る人は少なく、誰かから声を掛けられて、それなら行こうかという人が多い。個人情報とかの制限もあるので、こちらでは分からない。民生さんも、子どもが生まれましたよという話で、住所もわからないから手探りで探している状態だと思う。

う。

- 以前に意見があったのは、メールサービスとかをしてくれたらということもあった。いろんなホームページに書き込みがあって、それを見て行けたらいいけど、そういう情報はどこを見てもないし、愛育会に入っている人は便りを見て分かるけど、入っていない人はネットで探してもわからない。そこまでは手が回らない。
- 愛育会の方からの情報の発信は、会員に便りを届けにている。それから図書館とかサークルとか、病院とかにも、パンフレットとかチラシ置かしてもらったりしている。マルナカにもチラシを貼るが、今のところ口コミ以外ない。
- (インタビュー参加者が) 最初どこで情報を得たのは、口コミ。保健師さんから。あいあいなど。保健師さんから、今は人数が減っているから入りやすいよと言われて。あんまり大勢だったら、もうグループができてしまっているの、それだと入りにくいので。
- ここ 10 年くらいで様子がガラッと変わった。10 年前くらいだったら、おうちにピンポンって来て、こんなのがありますよ、じゃあ入会しますよとなったけど、それが全然なくなってしまった。怪しい人も増えてると、訪問しても誰って感じになる。
- さぬき市のホームページに載せてはいる。何か会があれば、さぬき市なんとかネットで載せてくださいとメールで流したら乗せてくれる。
- 子育て支援課、国保健康課を通して、各団体の広報は出してはいるが、合体させてどうこうというのは、取りまとめる誰かがいないといけないので、それがいないとできない。それだけ手間もかかるし、すべてボランティアで、その負担を誰が負うかということになる。
- 伝承遊びは児童館に年に 2 回くらいきている。ケーブルテレビの CM とか、小さいチラシを幼稚園とか小学校から持って帰って。それが分かればいけるが、なかなか情報が伝わりきらないところがあって。情報があつたら、いってみようかなとは思うが。昔みたいに愛育会が盛んな時は、自分から探さなくても情報が耳に入ってきていた。それがなくなって、ではどこかで誰かに話を聞こうと思ってもそういう場所もない。若い人は情報が入ってこないから、いきなり「愛育会はどうですか」といわれても、「それは何ですか」となってしまう。

#### 【他団体・他施設】

- 石田の保育園の園長先生の奥様がカナダの方だったので、「英語で遊ぼう」というのを一度やったが、話がつながらずに終わっている。
- 支援センターには行くけど、そこで OK で遊ぶだけ遊んで終わり。支援センターは保育所の先生もしながらやっているというのものもある。自分の好きな時に行けるとするのが魅力なんだと思う。愛育会だと決まった日に行かないと駄目だけど、好きな時に行って好



きな時に帰るほうが楽。同時刻に同じことをしていると、支援センターのほうに行ってしまうということも何回かあった。支援センターはただで、愛育会は会費がいる、お金がかかる。

- ・ 結局はみんな兼ねてしまう。「きらら」もそうだが、社会福祉協議会に予算が下りた、では何かやりましょうといってもやる人がいないから、こっちに振られて兼ねなくてはいけなくなる。社協が子育て関係の情報が欲しくて、愛育会とかが話をしていると、結局は兼ねる話になる。社協の社員の人はいろいろな仕事を持っているから、そこまでは手が回らないと。
- ・ 社協で子育て関係ので何百万か予算がつくから3月末までに何かしましょうと。閉校になった分校を使って何かしましょうと。施設も固定しないで、終わったら撤去できる形でとか。
- ・ 社協に予算が下りてきて子どもが集まる場を作らなければ行けないとなって、作るのはめんどろなので兼ねてもいいかということで兼ねた。予算は愛育会からも社協からも出るが、会計報告をする時に愛育会とサロンで兼ねているのはおかしいんじゃないかということをする人もいる。
- ・ ファミサポは窓口が社協になっているだけ。まかせて会員さんとやらせて会員さんがいて、それを繋ぐツールになっているだけ。お金のやり取りも会員さん同士で。全然知らない人には、自分の子どもは預けられない。波長が合う合わないがあるから、面接は1回親子できてくださいというのはある。どうしようかなと思ったことはあるが、知らない人に家に入ってこられるのが嫌。知っていて信頼できる人なら子どもも預けられる。
- ・ 児童館は志度はあるにはあるけどほとんど動いていない状態。あとは地域に1つはある。長尾だけ2つある。寒川は幼保一貫の保育所と一緒にしている。

放課後に援護保育しているので、常時先生はいる。児童館は幼稚園、小学校、保育所の先生の資格を持っている人しか入ってない。小学生でいっぱいになってしまうので、未就学児は各幼稚園に行くようになっている。不定期に未就園児の行事を開いてくれる時もある。

サークルの週2回の集まりは児童館でやっている。だから児童館の先生はなかよしクラブの子どもたちのことも良く知っている。児童館はサークル以外でも行くという話は聞く。公園代わり。毎週一回は集まっているから行きなれているのもあるし、駐車場もあるし、囲いがされてるから子どもが勝手に出て行く心配もしなくていいし。

- ・ マイシアターのもこもこっていうのに登録しているが、そこは理想的な状態。スタッフが4、5人いて、それを助けるサポーターも何人かいて、常時開いていてお母さんも一緒に遊んでください、いろんな行事もあって、お母さんの茶話会もしてという感じ。あそこは三条の駅の中にあるので、急な時でも顔も分かっている預けられる。

### 【愛育会の存在意義、存続】

- ・ 市と直接につながっているから、市の子ども関係のボランティアと言ったら愛育会しかない。私たちの思いを伝えることはできると思う。けども働いているお母さんとかは、自分たちは恩恵を受けるだけの受身状態の人が多。そういう人の意見はあがってこないというのと、だんだん会員になる人が減っていつている分、役員になる確率が高くなっている。ということは、子どもを見ながらいろんなことをしなくちゃいけない、それがすごく負担になっていて、子どもが大きくなれば小学校の役員が当たったり、他にも係があったり。その負担がここにかかってくる。働いていないと「あなたどうせ暇なんですよ」っていう感じにもなるだろうし。
- ・ 私たちが役員を引き受けた時は、私たちがこうしてもらったから、では私もしょうという感じで、うまいことどんどん入れ替わってきていた。今の人たちは、恩恵は受けたし身軽になったからお仕事に出るからと、スパンと切られてしまう。そしたらその下が続かないので、そのジレンマで私たちの会も停滞状態になっている。
- ・ 何かで出かけていて、子どもが帰るのに自分が帰れない時、愛育会で知り合った友達のとこに、「今日そっちに帰してもいい」って連絡して、逆もある。そういうつながりも、愛育会に入ったからできたからよかったと思う。
- ・ 愛育会自体が役員のことではたがたして、会員が減ってる中で役員を交代する人がいないから、どうなっていくんだろうというのが強い。志度は人数も多いので落ち着いている感じはするが、他の4町は役員をしてる人は何年もして、新しく入ってくる人はなかなかやってくれない状態。寒川は来年は続ける人がいませんといわれた。
- ・ もともと保健関係で入ってきているので、声掛け運動とか歯ブラシやお箸を配ったりとか、検診の手伝いとかを中心に動いていて、そのなかで愛育祭りとかもしていたが、その手伝い自体にもいけなくて、訪問自体も問題が出てきていて、では私たちはどこに向かっているのだろうかということが疑問に感じつつある。行事を行っていても他でもしているから、わざわざこっちにこなくてもいいという人も出てきていると思う。なので、継続自体を考えてしまう
- ・ マンションに住んでる人が多いし、そういう人には特にそういう場が必要だと思う。地元の人には地元の友達から情報を得ることができるけど、マンションに住んでいる人とかは何年か後には転勤だとかで、そういう人にはこの場はいらなかなと。きららのサークルも、お昼ご飯を食べて2時くらいまであいているので、その後でお茶を飲むのが楽しみみたいできている。コーヒー飲みながら、今ならインフルエンザの予防接種とか、そういう情報交換をそこでして、だからきららが多いのかなと思う。特に未就園児のお母さんにはこの場は重要かなと。
- ・ 志度はサークルとか支援センターとかいろいろあるので、個々に活動している状態なので、それをまとめてくれる誰かが必要かなと思う。役員をする人も減ってきたので、その負担を私たちがボランティアでやるのではなくて、市の職員に負担を背負ってもらっ

て、そこから私たちにおろしてくれた方が、私たちは動きやすいのではないかなと思いはじめた。一番負担が大きい作業は、個々の家から呼び出すということができなくなってきているから、それを一括して全世帯にばら撒くではないけど。その人が出てきてくれたら、こちらで何かしますという方がやりやすいのではないかなと思う。

- 一旦全戸会員にしてという話もしたが、広報に便りを挟んで配ってもらうということもしたが、それはそれで仕事が増えるのではということにもなった。意見としては続けたけれど、このまま続けられるのかという先の見えない不安。子どもが同じ年だと友達になれるが、愛育会では子どもの年が違うお母さんとも友達になれるから、すごく大事だと思う。
- 会員が続かないんです。なかよしクラブが終わって、保育所なり幼稚園に行くとそこで終わりという流れができてしまっている。役員は子どもが大きくて、他の一般会員さんは未就園児みたいな感じ。だから次に頼みたくても、生まれたばかりの子どもを抱えたお母さんに頼めない。なかよしクラブが終わってそろそろかなというお母さんに声はかけるんですが、仕事にいくからという感じで、役員は数年変わってない状態。

## 長尾公民館運営協力委員会インタビュー

場所：長尾公民館

参加者：9人



### 【老人クラブ】

長尾は現在 1514 名、50 名程度の単位クラブが 32 ある。公民館では長尾大学高齢者学級、長尾地区老人クラブ連合会の体力測定教室でホールを使わせてもらっている。老人クラブだから、若い方でも 65 歳は越している。会員の平均は 78.2 歳。

良くなったことは、合併して他の地区から長尾の講座に来たり、長尾からも他の地区の活動に参加できるようになった。同じようなことが老人クラブの活動でも言える。他の地区で会場を持っているいろいろな行事をして、こちらから参加したり、逆に長尾でやったりとか、交流の輪が広がっている。今まで顔も知らなかった方と会って、それぞれの地域の状況とかを聞いたりする。それぞれの地域での発表会で、活動の内容や成果を発表するが、お互いに交流することができるようになったので、長尾地区だけだったときよりは活動の参考になる。

悪くなったことは、老人クラブは移動の足に社会福祉協議会でバスを出してもらっていたが、社会福祉協議会の中で福祉サービスとか介護保険事業をしていて、介護保険事業は利

益を考えなくてはいけない。そうするとバスのゆとりが狭くなってきた。それで移動するときに非常に困っている。

予算は県から市へ、市からそれぞれの老人クラブ連合会へと配分されてくるわけだが、少しずつカットされている。単位クラブには人数割りで配分する。単位クラブはそれでできる範囲の活動をするわけだから、別に収入源がない場合は活動を縮小せざるを得ない。

これからますます高齢化が進んで、高齢者学級にいられていた方が、次第に体調を崩したりということ、参加が難しくなってくる。そういう中で公民館の活動を会員としてできるだけ参加できるように、例えば会員宅に仲間が行って、資料とともに講義の内容を話すとか、体操はこんなで一緒にやってみますかというように、参加人員プラスアルファも考えていかないといけないと思う。

### 【文化協会】

さぬき市の文化協会は 1000 から 1100 名くらい、長尾の文化協会は 200 名くらい。合併前は役場の方がものすごく力を入れて、何もかもやってくれていた。事務から始まって、文化祭をするといったら、役場の人総出で準備してくれて、われわれは作品を作るだけでよかった。それが合併してからは、行政は予算は出すけど、あとは全部自分たちでやってくれとなった。最初は大変とまどって、事務も全部やらないといけないし、何かするとなっても高齢化しているから机を運ぶのも大変。シルバーを雇ってきてやったり。合併して 6 年でようやく慣れた。

長尾地区の活動と、その上にさぬき市の活動が二重になって、市の活動にいった場合は他の地域の方々と交流しながら、より高い活動ができる。文化協会には音楽、文学、美術などの部門があるが、部門別の大会が今までなかったような充実したものができる。予算は合併前にはほとんど予算はなかったが、合併後のほうがたくさんくれるようになった。一番の問題は、今は無料で使っているけれども、いつまでもそうではいけないということ。

### 【文化財保護協会】

長尾町時代には教育委員会は 6 人か 7 人いた。文化財保護協会自体の話だと、教育委員会が資料からお膳立てを全部やっていた。だから私たちは会に行けば資料が出てくるという状態だった。それがある日突然何もやらないよと。合併してから文化財保護協会に関係するひとは、さぬき市全体で 3 人しかいない。だから人力的なことから言ってもできるわけがない。

予算はどうかといえば、町の頃は百万円からあったけど、今は数万円。本来文化財保護協会は、国の法律で認められているから、本質的に言えば、教育委員会がやるべきだと思う。他の都道府県はほとんどが教育委員会がやっているが、どういうわけか香川県はやらない、

これは法律違反だと思う。

さぬき市は5町が合併したが、文化財保護協会は未だに独立意識が強い。極端に言えば、5つみんな別。合同で動くこともあるので、顔見知りになったりしますが、そういうことは人のつながりだけの話。合併してもあまりメリットがないと感じる。

#### 【クラブ活動】

##### ● 短歌の会・書道の会

さぬき市の文芸大会では、広い地域から歌の仲間が寄ってきて、小さい時よりは今の方が活発に活動できていると思う。書道の方もあちこちで展覧会ができるし、交流もできて広いところで友達もできる。

##### ● フォークダンス

合併する前から志度とかからも来ていたので、変化はない。費用も自分たちでやってきたし、講師のお礼も出せる範囲でやっていた。今は使用料はないが、公民館の費用はできたら抑えていただきたい。

#### 【子育てボランティア活動】

ボランティアに出かけたりするのも全て、自分の費用でやっているで、ここの使用料だけはずっと無料で続けていただきたい。

、合併後に立ち上げた。定期的な役員会とか、地域の親子を招待して、季節の行事の時にお料理を食べていただいたりというのを、ボランティアでしてる。悪くなったのは、県と市から補助金をいただいていたのが、県は出さなくなった。今の時代、共稼ぎができるような環境を作るために、私たちは活動したいと思うが、予算はカットされている。社協がさんさんクラブを1時間500円でやっていて、私たちは何時間でも100円くらい出すような形でやっているが、同じボランティアをやるのであれば、社協に行けばたくさんお金がもらえるというように、会員さんの意識も変わってきた。

ファミリーサポートセンターは、ボランティアでありながら、お金がいただけるというもの。私たちは一対一で見るというより、5、6人で同じくらいの数の子どもを見るという感じ。できれば一対一で見た方が安全面もいいと思うが。ファミサポの場合は障害児の方もいたりするから、お金が少なくても構わない、2、3人で誰かがお手洗いに立ってももらえる状態が楽かなということで、参加している。おまかせ会員は名前があっても実際活動される方が少ないから、お願いされたときには応援したりしている。

## 【伝統文化】

### ● 熊山太鼓

できて 30 年になる。合併前は町長について奈良、京都、広島、鹿児島、静岡などを転々とした。合併して 5 町の中の大きな太鼓がいろいろあり、みんなで発表会をする。それは良かったと思う。どっちが良かったかと天秤にかけたら同じ。

以前は 20 人余りいましたが、高齢化の関係もあるし、若い人に声をかけても出ないので人数が減ってしまった。国からの補助がきていた時もあったが、たくさんの書類を書いて出すのが大変だったが、最近はなくなった。

### ● やはず太鼓

人が寄らない。会員が、昔は 30 人くらいいましたが、30 年以上やっていて、習った人は 100 名を超えている。今は減ってしまって、前山分館で 6 名。高齢化している。20 年くらい前は高松とかいろんなどころへ行っていたが、今は人数の関係で出演できる状態ではない。今の一番の問題点は後継者。小学生は高学年になったらやめていく。行政からの支援は受けていない。

### ● 香川伝統菓子

打ち出し飴で伝承士をもらっている。大川郡中ほとんど指導に行った。小学校に 6 年間くらい入って教えた。子どもたちにとっても喜ばれる。先日は津田の公民館で親子のうどん打ち教室をしたが、たくさんきてくれた。何を持って子どもと交流するかということは、どんなものが好きなのかも考えながらやっている。

### ● 伝承遊び

何十人か教えてきたが、そのうちの何人かでも大人になったら思い出してくれると思う。それだけを待つ。楽しかったということが残ってくればということだけで、何十年もやってきた。

老人クラブで長尾小学校で 7 月に、「昔遊び伝承交流会」というのをして、希望者 200 名ほどの児童が参加し、10 種類ほどの伝承遊びをやった。2 月には幼稚園で毎年やっている。老人クラブの単位クラブでは、そういう活動をしているところもあるのではと思う。

## 【施設としての公民館】

- ・ 前山公民館は、合併前は前山地区だけの集会所だったのが、合併してからは市全体のもので、前山地区以外の利用者がたまにいる。清掃は地区のみんなですべてやっている。
- ・ ここの使用料だけはずっと無料で続けていただきたい。
- ・ エレベーターをつけたり、改善していただきたい。

- ・ 清掃について、合併して使っている会員のグループ別に共同でやるようになった。公民館は地域で守っていくような状況だから、お掃除も皆するのがいいんだろうとは思いますが、どちらかといえばさぬき市になって悪くなったかなと思う。
- ・ 清掃について、長尾公民館だけは平成 18 年度まで一切掃除をしていなかった。市の教育委員会はしているものだと、そのつもりで予算も出していた。ところがしていなかったということで、私が館長になった時に怒られました。それで一度にそんなにしてもいけないから、夏冬 1 回ずつ始めた。ここは利用者が 600 人いるから、夏に 100 人、冬に 100 人、利用者の 1/3 に出てきてもらって 19 年度に始めた。
- ・ 使用料については、体育施設との兼ね合いがあって、公民館単独で使用料を決めることができないということから、現在未確定。
- ・ 修繕費は長尾公民館の場合は年間 20 万円。一箇所直したらたいだいそれで終わり。今懸案になっているのは、2 階の洋式のトイレ。場所の問題は一つトイレを潰さないと洋式にできませんので、2 つ分を潰して作り直すとする 30 万円。予算を 4 年分先取りして作ろうかとも考えて、市の方とも話をしている。
- ・ スロープがついたり、足が不自由でも利用しやすくなっている。将来は、車椅子でも参加できるようになればいいと思う。

#### 【公民館の機能】

- ・ 事務局機能の話ですが、現在は一切引き受けていない。それはこの 4 月から、公民館で体育施設の受け入れもしなければいけなくなった。その上に何かの事務局をとんでもできない。ここの公民館の講座は、ここと分館含めて全部で 45 ある。火曜日から金曜日まではフル回転で、そのやりくりは結構大変。
- ・ 小学校の親子を対象にした親子教室というのを、年間 6 回やっているが、これも今の小学生の現状から言うと無理。小学生は無茶苦茶忙しい。週 7 日のうちの 5 日も 6 日もスポ少にとられて、土曜日ここへきて親子教室で活動しろとはよう勧ない。連携も難しい。今の小中学生の現状を考えると、公民館に引っ張るのは無理。
- ・ 公民館が老人クラブならそれでいいのではないか。リタイヤされた方の活動の場でいいと思い始めた。使用料をとるよりは、とらないで皆で楽しく勉強をさせた方が医者に行かないでいいという意見が出た。医療費がかからない。